

平成23年度 事業計画

I 財団運営の基本方針

お客様本位の視点に立ち、大分県の文化振興施策との協調性を保ちながら、県民の幅広いニーズを踏まえた自主文化事業を実施し、県民の多様な文化活動を支援するとともに、地域の文化施設との連携を図ります。また、国内外で活躍する大分県出身の芸術家の育成や活動支援などに取組みます。

さらに、大分県立芸術文化短期大学や県内の芸術文化関係団体などとの連携を深め、「iichiko グランシアタ ジュニアオーケストラ」の育成や優れた総合舞台芸術の創造・発信など財団独自の取組みを強化し、iichiko 総合文化センターが国において育成が促進されている「地域の中核劇場」として位置づけられるよう努めます。

これらの取組みを通して、本県における文化創造の中核として、その果たす役割を積極的に推進していきます。

また、県民の国際化や在住外国人を支援するための多面的な国際交流の企画や情報提供、交流の場の提供等を行います。

あわせて、お客様のための円滑な施設運営と良質なサービスの安定的な提供を図るとともに、指定管理制度の主旨に則った取組みを行い、より効果的・効率的な経営に努めます。

公益法人制度改革については、公益財団法人への移行を目指して、検討を進めていきます。

II 指定管理者としての運営方針

指定管理者としてのこれまで5カ年の実績に加え、お客様の声を積極的に業務に反映させるとともに、職員自らが改善点を提案し対応していくことで、より利便性を高めるなど一層のサービスの充実・向上を目指します。特に、お客様が安心して利用できるように施設の安全性の向上や快適な環境の創出のほか、経費節減を図るなどの確な維持管理に努めます。

また、公共性・公益性に基づいた運営と優れた自主文化事業の提供や効率的な管理運営など、「管理運営に関する事業計画及び収支計画」を着実に遂行し、第2期指定管理の3年目としてさらなる評価の向上を図ります。

III 大分県安心・活力・発展プラン2005の推進

平成27年度を目標とした大分県新長期総合計画「安心・活力・発展プラン2005」に呼応し、なお一層の効率化と優れた自主文化事業の提供等サービスの向上により県民満足度の増進に努めます。

IV 大分県立総合文化センターの管理運営

1 ネーミングライツの定着

平成22年度から2期目に入ったネーミングライツについて、次の愛称の使用・周知を図り、あらゆる機会を通じてさらなる定着に努めます。

施設名	愛称
大分県立総合文化センター	iichiko総合文化センター
大ホール（グランシアタ）	iichikoグランシアタ
中ホール（音の泉ホール）	iichiko音の泉ホール
アトリウムプラザ	iichikoアトリウムプラザ
練習室等（スペース・ビー）	iichikoスペース・ビー

2 自主文化事業の企画及び実施

(1) 企画方針

これまで、「大分県文化振興条例」や「大分県文化振興基本方針」に掲げられた大分県の文化振興施策遂行の一翼を担う中核として、「本物の芸術文化に触れる」、「人を育て活かす」を基本方針に自主文化事業を展開してきましたが、開館以来、当財団が自主文化事業を毎年実施してきた結果、民間事業者がオペラやバレエ公演を開催する事例が見受けられるようになりました。そのため、「本物の芸術文化に触れる機会を提供」する鑑賞系事業を自主文化事業の柱のひとつとしつつも、大分県独自の芸術文化を創造、発信し「地域からの文化づくりを推進」する創造系事業を新たに方針に加えて事業展開を図ってきました。平成23年度の自主文化事業は、引き続き以下の4つの大きな柱を据えて事業展開を図り、国の「地域の中核劇場」への助成金（優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業）獲得を目指します。

①質の高い舞台公演の実施(鑑賞系事業)

「本物の芸術文化に触れる機会を提供」するため、全国屈指の優れた設備を有するホールを活かし、県民に鑑賞機会の少ない国内外の優れた舞台芸術を文化事業基金や企業の協賛、ボランティア等を活用して、低廉な価格で提供します。

②人づくり事業

(ア) 創造系事業

「地域からの文化づくりを推進」するため、国内外で活躍する県出身者あるいは県内で活動している若い芸術家の育成や活動支援など大分県の特徴ある文化づくりを推進する事業を展開します。

また、音楽を通して次代を担う子どもの健全育成と豊かな感性を養うとともに、県民文化の一層の振興を目指した「iichiko グランシアタ ジュニアオーケストラ」の育成にも力を注ぎます。

(イ) 普及系事業

「人を育て活かす」ため、これからプロを目指そうとする新進芸術家に発表機会を提供するとともに、県民自らが芸術文化に参加する機会を提供し、芸術文化の普及と県民の芸術文化活動の支援を行います。

③地域文化振興支援事業

県とも協力しながら、県内芸術団体が行う公演に対して経費の一部を助成したり、公演を県内各地の文化ホールと連携して開催するなど、地域文化の振興を支援します。

(2) 事業計画

①質の高い舞台公演の実施（鑑賞系事業）

【主催公演】

実施方針

(ア)国内外の優れた芸術文化の鑑賞機会を低廉な価格で提供します。

世界的レベル、あるいは日本の最高レベルの公演を、iichiko 総合文化センターパートナーシップ履行受託事業収入や文化事業基金を活用して広く県民に低廉な価格で提供します。

(イ)大分県文化の殿堂、文化活動の拠点として情報発信に努めます。

全国的にもトップクラスの音響や舞台設備を備えた「iichiko グランシアタ」、
「iichiko 音の泉ホール」は、県下の文化ホールの中心的存在でもあり、トップレベルの芸術文化の公演とともに、先駆的な公演を紹介するなど、全県的な情報発信に力を入れていきます。

(ウ)公益性、集客性、芸術的価値の観点から選定します。

事業内容

オーケストラ、オペラ、バレエ、歌舞伎、文楽、ミュージカルなど幅広いジャンルに質の高い催しを、財団の企画により実施します。

オーケストラでは、芸術の国ロシアが世界に誇る「サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団」が巨匠テミルカーノフに率いられてきます。数々の名演奏を行ってきた楽団の重厚な演奏が期待されます。ベルリンからは、ベルリンフィルハーモニーのメンバー8人による珠玉の八重奏団が人気ピアニストの仲道郁代とともに大分公演を開催します。韓国からは、本場イタリアで活躍しながら甲状腺ガンで声を失い、奇跡の復活を果たしつつあるテノール歌手ベー・チェチョルが大分で感動の歌声を披露します。

平成22年4月に第1回定期演奏会で感動の波動を起こした「iichiko グランシアタ ジュニアオーケストラ」は第3回定期演奏会を3月に開催します。

3年ぶりとなる待望のオペラ公演は、東欧を代表するプラハ国立歌劇場によるプッチーニ円熟期の「トスカ」です。TOSテレビ大分との共同開催により、料金を出来るだけ低く抑えるとともに、新たな iichiko 総合文化センター来館者を開拓します。

ミュージカルでは、東宝(株)制作の「ウェディング・シンガー」をお楽しみいただきます。主役のミュージカル界のスーパースター井上芳雄氏と人気ポップスター上原多香子さんを中心に笑いと涙が満載の息もつかせぬ舞台を展開します。

毎年開催している「松竹大歌舞伎」では、片岡仁左衛門、秀太郎、愛之助といった、新春に京都南座を沸かせた顔ぶれが大分にやってきます。

「人形浄瑠璃文楽」では、日本人には馴染み深い名作を、大夫・三味線・人形三位一体で味わい深く醸し出します。

【共催公演】

共催公演は、(財)アルゲリッチ芸術振興財団主催の「第13回別府アルゲリッチ音楽祭」のほか、「NHK交響楽団大分公演」、「大分県立芸術文化短期大学主催公演」、マスコミ提案による公演等を開催します。

②人づくり事業

(ア) 創造系事業

「iichiko グランシアタ ジュニアオーケストラ」は3月の第3回定期演奏会に向けてさらなる充実強化を図りながら、途中弦楽器や管楽器のアンサンブル演奏会なども交え練習を重ねていきます。また、学校や病院などで開催するアウトリーチコンサート、初心者向けの楽器体験やレッスンを行うアカデミッククラスの設置など基盤強化と対象者の拡大に取り組めます。将来の音楽芸術の底辺拡大と発展が期待されます。

地元大分の若い演奏家たちが、NHK交響楽団トップ奏者との共演を目指す「MAROプロジェクト」では、レッスンからコンサートまで一連の成長過程をより多くの方に鑑賞していただき、演奏者同士だけではなく鑑賞者も一緒に室内楽の素晴らしい世界、成長する楽しみを広く共有できるものとしていきます。

「人間国宝～その心と技～」では、長唄鳴物の人間国宝である堅田喜三久氏をお迎えし、その芸と精神の神髄を、日本の伝統芸能に造詣の深い葛西聖司氏との対談や実演を通して間近に感じることで、またとない機会を提供します。

バレエ「くるみ割り人形全幕」は、県洋舞連盟がボリショイ劇場のソリストと一緒にレッスンを重ね、地元の「大分チェンバーオーケストラ」がボリショイ劇場向けの指揮者のもとで音楽を練り上げるなど、総力を挙げて一つの舞台を創作します。

いずれも財団独自の企画による公演で、地域からの文化づくりを推進し、国の「地域の中核劇場」への助成金獲得を目指します。

(イ) 普及系事業

普及系事業では、例年開催している「アーティストプロデュース」をはじめ各種ワークショップ、レクチャーなど「人を育て活かす」ことを目的とした事業を展開します。

「アーティストプロデュース」は、県内で活動する若い芸術家に発表の場を提供することを目的としながら、人が多く集まる iichiko 総合文化センターがアートにより、楽しさとくつろぎの両方が感じられる空間となるように、公募により飾り付けなどを行います。

ワークショップは、歌舞伎などのセリフを題材にした「朗読教室」や、ミュージカルの歌とダンスのレッスンなど、公演を鑑賞するだけでなくその内容を体験する機会を提供します。また、ミュージカル俳優を目指している在京の若い学生達が七夕祭りのステージで華やかに歌って踊り、ミュージカルの楽しさを大分の人たちと共有するパフォーマンスも開催し、同時に iichiko 総合文化センターの公演や施設などのPRを行います。

レクチャーは、9月の歌舞伎公演及び3月の文楽公演に先立ちその基礎知識や見どころ、聴きどころを解説する「歌舞伎レクチャー」と「文楽レクチャー」を葛西聖司氏に講師をお願いして開催するほか、学校などでの出張公演にも取り組めます。

その他、クラシック音楽ファン拡大のため、日頃クラシック音楽に触れる機

会の少ない人に、クラシック音楽の楽しさを身近な場所で味わってもらい「街角コンサート」を開催します。このコンサートには「MAROプロジェクト」の出演者に演奏を依頼し、県内演奏家の演奏機会の提供も併せて行います。

③地域文化振興支援事業

県内の芸術団体が行う公演に対して、経費の一部を助成したり、県内の公共ホールと連携して公演を開催するなど、地域文化の振興を支援するための事業を行います。

(3) パートナーシップによる冠公演の開催

ネーミングライツの一環として、財団が主催する公演のうち、「ミュージカル ウェディング・シンガー」、「ベルリンフィル八重奏団&仲道郁代」、「松竹大歌舞伎」、「プラハ国立歌劇場オペラ『トスカ』」、「テミルカーノフ指揮サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団」、「ベー・チェ Choltenor リサイタル」の6公演に **iichiko PRESENTS** の冠を付して開催する予定です。

3 サービス改善提案事業の企画及び実施

(1) 企画方針

将来を担う子どもたちが、感性を育て、文化を尊重する心と豊かな人間性を育むことは、「優れた文化芸術の鑑賞の機会づくり」や「次代の文化活動や地域活動の担い手づくり」を提唱する「大分県文化振興基本方針」の主要部分です。

こうした中、比較的舞台芸術に接する機会が少ない地域の子どもたちとその保護者を対象として、当センターのホールで舞台芸術鑑賞事業を実施します。

感性の伸び盛りの子どもが家族と一緒に楽しみ、当センターの舞台芸術の魅力を多くの方に体感してもらうことでリピーターとなることも期待できます。

(2) 事業計画

比較的舞台芸術に接する機会の少ない大分市、別府市以外の小学生とその保護者を「iichiko グランシアタ」、「iichiko 音の泉ホール」で当財団が主催する公演に無料で招待します。また、学校単位や社会福祉施設単位で希望される場合は、地域を問わず子どもたちと引率者を招待します。

募集については、新聞等で公募し実施することとします。

4 文化情報の提供

機関誌「emo (エモ)」や月刊イベントカレンダー、メールマガジンの発行、ホームページ等を通じて **iichiko** 総合文化センターの施設紹介や公演、イベント、県内の文化芸術に関する様々な情報を広く提供します。特に、ホームページでは主催事業などの文化情報や施設案内コンテンツを充実させるとともに、動画も積極的に取り入れた魅力ある情報を発信することにより、アクセス増加を図ります。

また、新聞折込広告の活用をはじめ、テレビやラジオを活用した情報提供、県内事業所への定期的な公演案内、祭りや県民が集まる場所でのPRイベント開催など、情報発信の充実・強化に努めます。

5 県民参加組織の育成

(1) 「emoスタッフ」の育成

自主文化事業へ県民参加の場を提供するとともに、円滑な事業運営を図る観点から、公募による公演運営ボランティア「emoスタッフ」制度の充実強化を図ります。平成23年度は、新たに募集する10期生を含め、50名程度の体制で運営します。また、年2回の研修を通じて、より一層の意識の向上とスキルアップを図ります。

(2) 「emo倶楽部」の拡充

自主文化事業運営の円滑化と県民の芸術文化に対する理解を深めるため、友の会「emo倶楽部」への加入促進に努めます。公演内容の充実に加え、広報活動の強化と会員サービスの充実を図ります。

6 お客様の声の反映・自己評価・職員研修

自主文化事業公演時のアンケート調査、及び施設（ホールや練習室、地下駐車場等）を利用されるお客様へのアンケート調査を実施します。また、施設の管理運営に対する意見交換を行う、お客様懇談会の開催などを通じて、ご意見やご要望の収集に努め、施設の管理運営の改善に向けて反映させていきます。その際、財団だけでは対応できない場合には、ビル管理者や県とも協議を行うことで最善の方法を探ります。

あわせて、サービスの提供や自主文化事業、県民の文化活動への支援等に対する財団の自己評価を継続して行うことにより、サービスの一層の向上及び業務の改善、職員の意識改革を図ります。

さらに、今後県の芸術文化振興に果たす財団の役割を全職員が十分に認識し、より一層お客様サービスの向上に取り組んでいくため、職員のスキルや意識の向上を図る効果的な研修を実施するとともに、全職員からの提案を募ります。

7 施設の管理運営

(1) 施設の利用促進

iichiko グランシアタ、iichiko 音の泉ホールについては、お客様に誠実・丁寧な応対を行い、ご要望に的確にお応えすることで、リピーターの確保に努めます。大分県立総合文化センターの管理に関する基本協定書に示されたホール利用率の目標指標83.5%の達成を目指し、利用希望日が重複した場合には、特にお客様との連絡を密にするなど、1件でも多くのお客様が利用できるよう調整に努めます。

また、新規顧客の開拓を図るため、平日利用を中心にこれまで以上の営業努力に努めるとともに、iichiko アトリウムプラザ、県民ギャラリー、映像小ホール、会議室、練習室というホール以外の施設と併せて、機関誌に特集記事を掲載するなどの取組みを行います。

広報宣伝活動においては、ホームページを一層改善、充実させるとともに、分かりやすい利用案内・チラシを作成・配布することにより施設の利用促進に努めます。また、4年目に入る全国ネットのチケット取扱い店の周知を徹底するほか、複合施設としてのメリットを生かし他の所有者と連携しながら OASIS ひろば21全体を相互に紹介することにより、施設全体のイメージアップと集客アップを目指します。

施設利用については、お客様にとって満足度の高い催事となるよう、開催前には入念な打合せを行い、ノウハウの提供、サービスの強化に努めます。地下駐車場については、雨・風にさらされることなく、直接利用施設へ移動できるという利便性や、警備員の常駐、防犯カメラの設置というセキュリティの高さをPRすることで利用促進を図るとともに、案内表示等を充実させ、より利用しやすい環境を実現します。

さらに、お客様ニーズに応じて、休館日の臨時開館や利用時間前後の延長、保守点検日程の柔軟な変更などのご要望にはできる限り対応するなど、ニーズを反映した満足度の高い施設づくり、利用しやすい施設づくりを進めます。

(2) 施設の維持管理・環境負荷の低減

ホールの舞台機構等の保守点検や清掃、警備、設備の維持管理等の専門業者と緊密な連携を図ることにより、施設の効率的かつ安定的な運用を行い、お客様が安全、快適に利用できる環境実現に努めます。

また、電気・ガス・水道の契約内容を OASIS ひろば21 の統括管理者である、(株)エフ・ティー・シー大分と連携して見直すことで、光熱水費の節減を目指します。その他、省エネルギー製品への切替えや再生品利用など、エネルギーに関する管理意識を高めて行動します。

駐車場についても、お客様の利便性に留意し、引き続き事故防止に努めます。

(3) iichiko アトリウムプラザの活用

(株)エフ・ティー・シー大分と当財団で構成する、「オアシスひろば21 催事実行委員会」が主体となり実施している、「アフター5コンサート」をより充実させるほか、主催事業である「アーティストプロデュース」などを iichiko アトリウムプラザを活用して実施します。また、大懸垂幕の掲示や小型モニターテレビの設置により主催事業をPRするなど、iichiko 総合文化センターの玄関となる、iichiko アトリウムプラザの積極的な活用を図ります。

また、地元商店街と意見交換や催事企画を行うなど、連携を図ることにより、賑わいの場を創出できるよう努めます。